いのちあふれる森を次世代へ

しれとこの森通信

2020
No. 23

P2
特集
100平方メートル運動地とアカエゾマツ

P7
2019年度活動報告

P8
しれとこNEWS
新作「知床の冒険」「THE LIMIT」完成！・ホロベツリボーンプロジェクト

National trust 100㎡ Movement Forest Trust
100平方メートル運動の森トラスト

アカエゾマツの物語

100平方メートル運動地には約121ヘクタールのアカエゾマツ林があります。それらは主に、100平方メートル運動（以下運動）で植樹した人工林です。知床の自然を愛する人々の想いをアカエゾマツに託し、1977年から2000年代初頭にかけて約16万本植樹しました。知床の厳しい自然の中では、成長が思わしくない所もありますが、植樹後30年、40年の歳月を経たアカエゾマツ林は、北国の針葉樹らしく、深く濃い緑に溢れ、着実に成長しています。

その大きく育ったアカエゾマツ林は、知床自然センターから知床五湖に向かう途中、岩尾別台地の道路沿いに広がっています。これらのアカエゾマツの植え方は、購入した苗木を過密に列状で植える方法でした。この植樹方法で成長したアカエゾマツ林は、密生しているため防風効果を備えています。羅臼岳の猛烈なおろし風が吹き荒れる岩尾別台地では、風が木の成長を妨げる大きな要因です。しかし、風にも負けず成林したアカエゾマツ林は、その防風効果で若い木々や国有林の古い森を、おろし風から守ることができます。

実は当時、アカエゾマツと一緒にシラカンバやミズナラなど広葉樹も植樹しました。その数約20万本。それら広葉樹は、アカエゾマツの防風効果に守られながら成長することが予測されていました。しかし残念ながら、当時植えた広葉樹のほとんどが今はありません。

その原因は80年代頃から徐々に増えだしたエゾシカです。樹皮や枝葉を食べるエゾシカの影響により、植樹した広葉樹のほとんどが消失しました。一方で針葉樹のアカエゾマツは、エゾシカが好む樹種ではなかったため、被食されることなく成長することができました。

運動地の森づくりはエゾシカの急増により、若い広葉樹をたくさん失い、大きく停滞しましたが、アカエゾマツ林は生き残りました。もし、植樹木を全て広葉樹にしていたら、運動地の現状は強風が吹き荒れる荒野のごとく、今より森林化が困難な状況になっていたと考えられます。

そして近年、エゾシカの影響は弱まりつつあります。それは、環境省や林野庁が主体となって実施しているエゾシカ対策の成果によるものです。運動地でも現在、自然に育つ広葉樹が散見される状況になってきました。

アカエゾマツ林の中

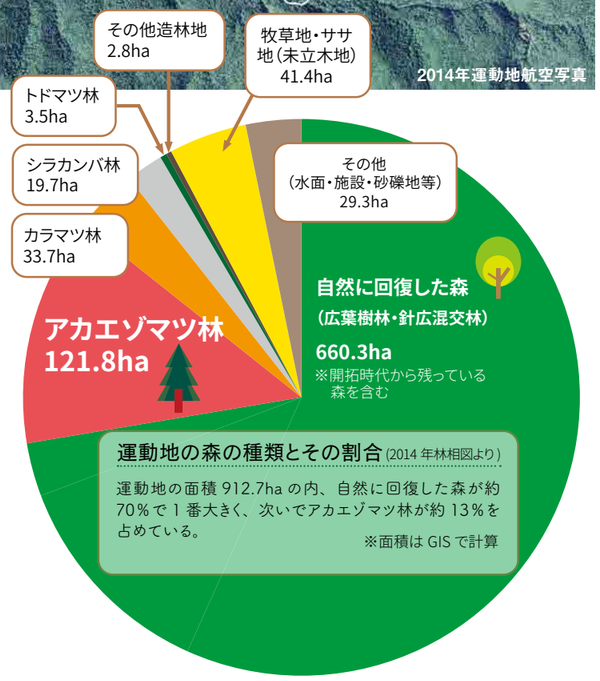
アカエゾマツの寿命は200～300年と言われています。この寿命からすると、運動地のアカエゾマツは、まだまだ育ち盛りの若齢段階です。成長のためにたくさんの枝葉をつけているアカエゾマツ林は、防風効果を発揮する反面、光が差し込まない薄暗い林内になっています。光が届かない林床にエゾシカの影響が相まって、林内は極めて多様性の低い状態が続いています。これは、針葉樹と広葉樹が混ざり合う知床本来の森を目指す私たちにとって、大きな課題です。

しかし前述の通り、広葉樹の生育を阻む要因の一つであるエゾシカの影響が弱まりつつあります。この機を活かすためにも、私たちは、アカエゾマツ林の防風効果を維持しながら、林内に広葉樹を導く新たなチャレンジを始めました。

アカエゾマツの純林（雌阿寒岳）

運動地のアカエゾマツ林 121.8ha

面積内訳
- アカエゾマツ高林 78.8ha
- アカエゾマツ低林 25.6ha
- アカエゾマツ幼齢林 17.4ha



アカエゾマツ

森林再生専門委員　森章

アカエゾマツはトウヒ属の針葉樹です。現在の分布の中心は北海道ですが、かつての最終氷河期には東北地方にも広く分布する樹種だったと考えられています。本州では唯一、東北地方の早池峰山に小集団残存しています。北海道では湿地、蛇紋岩、火山灰地、岩礫地などに局所的に純林や小集団を形成します。アカエゾマツは、過去数万年の自然の気候変動（いわゆる人為的な温暖化ではない）の中で分布域が小さくなり追いやられてきた樹種ですが、北海道では主要な林業樹種であり、広く造林されています。そのために苗木生産も多く入手も容易なため、本来ほとんど生息していなかったと考えられる「しれとこ100平方メートル運動地」にも植樹で用いられました。自然界で純林を形成するときは、土壌や地形の要因が他の樹種には不適ゆえにアカエゾマツだけになります。一方で造林地では林内は非常に暗く、林床植生や更新木が全く見られなくなります。落葉樹に比べて分解しにくい落ち葉（リター）が蓄積することで土壌の養分循環も遅くなります。このような事例は、知床だけではなく道内の他地域でも多々報告されています。アカエゾマツは、北海道の木に指定されており、早池峰山では天然記念物として指定されている樹種ですが、天然林の再生にとっては大きな障壁となり得る現状があります。

プロフィール

森 章（Akira S Mori）
横浜国立大学大学院
環境情報研究院　自然環境と情報部門
准教授

2004年、京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻博士課程修了、農学博士。京都大学、サイモンフレーザー大学にて特別研究員、横浜国立大学特任助教、カルガリー大学客員研究員などを経て現職。カナダ、アメリカ、内モンゴル、知床など、国内外で積極的にフィールドワークを展開。『エコシステムマネジメント』（編著、共立出版）『生物多様性の多様性』（共立出版）ほか著作多数。現在、日本学術会議・連携会員、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）の著者などとしても活動中。

上図①のアカエゾマツ林

• 1984年に植樹。面積は約1.6ヘクタール。現在は羅臼岳のおろし風を和らげる防風効果を発揮している。一方で林内は薄暗く、その他の植物が生育できない環境になっている。

100平方メートル運動地とアカエゾマツ

100平方メートル運動の森づくりは、40年以上の歳月を経て、開拓跡地を徐々に森に変えてきました。知床の厳しい自然の中で、木を育てる難しさを実感しながらも、私たちの森づくりは着実に歩みを進めています。今回の特集では、近年運動地の森の中で存在感を強めている「アカエゾマツ林」をご紹介します。

アカエゾマツ林を樹種多様な森へ

間伐とギャップで林内を明るくする

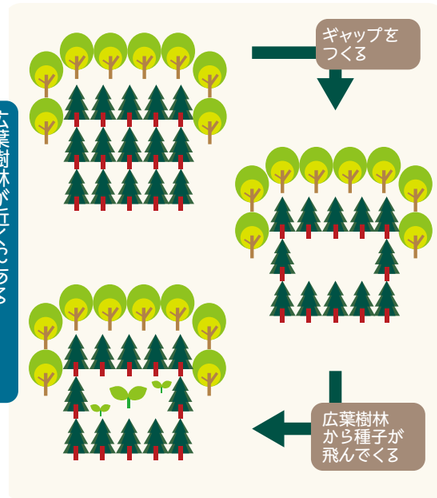
過密なアカエゾマツ林を樹種多様な森に導くためには、適度な間伐が必要です。間伐を行うことで、暗かった林床に光が届くスペースができ、広葉樹やその他の植物が入り込むことができます。しかし、若齢段階にあるアカエゾマツ林は育ち盛りです。明るいスペースができると、そこに枝を拡げてしまうため、数年の内に再び暗い林床になってしまいます。樹種多様化につながる効果的な間伐を行うためには、伐る量や実施頻度が重要です。しかし、年々大きくなるアカエゾマツに加えて、間伐対象地が広域にあるため、今までの労力では対処できない状況になってきています。今後は、必要に応じて機械の力を導入し、継続的に間伐を行う方針です。

また、間伐と併せて、自然かく乱を模した手法でアカエゾマツ林の環境を変える試みを行っています。自然かく乱とは、台風や地震などの自然現象が原因で森林の一部が壊れ、林内の環境が急変するような出来事を指します。

成熟した天然林は自然かく乱により、老衰した大木が倒れ、樹冠に大きな穴が開き、林床が明るくなります。この明るく、ある程度広さを持ったスペースのことを「ギャップ」と呼んでいます。天然林ではギャップができることで、樹冠の下にいた幼木の成長や種子の発芽が促進され、森林の更新が行われます。

この自然のかく乱を真似て、アカエゾマツ林でも人為的にギャップを造成しています。ギャップ内には、自然かく乱同様、倒木や枯死木を敢えて残します。これらは、ギャップに残る生物（昆虫や鳥）に利用されるため、かく乱後の生態系回復に重要な役割を果たすと考えられています。生物多様性に配慮することで、かく乱後から森林形成に至る回復の工程は、自然のメカニズムに頼ることができるのです。

ただし、天然林とアカエゾマツ林では、大きな違いがあります。それは、アカエゾマツ林の林床にはその他の植生がなく、地中の種子も枯渇した状態にあるということです。そのため、ギャップに再び広葉樹を入れるには、近隣の広葉樹林から供給される種子に頼る必要があります。ギャップの造成は、広葉樹林が隣接していることが重要な条件です。



広葉樹林が近くにあるアカエゾマツ林の樹種多様化

しかし、ギャップには広葉樹以外の植物も入ってきます。これまでも、牧草やササなど明るく開放的な空間を好む植物がギャップを専有し、発芽した広葉樹が覆われてしまうケースがありました。これらの侵入を抑えるためには、ギャップの光量を調整する必要があります。牧草やササは繁茂できないが、発芽した広葉樹は生育できる明るさ。そんな絶妙な光環境をつくる技術の確立が、アカエゾマツ林を早期に樹種多様な森に導く鍵となっています。

なお、間伐やギャップ造成時に出た伐採木は、運動地の森に還すのが原則です。しかし北国の森では、木が分解されて土に還るスピードは極めてゆっくりです。そのために伐採木が多量に出た場合、長期間不自然に堆積されることが予想されます。森林の健全なサイクルを保つためには、伐採木をウッドチップなどにして分解のプロセスを早める工夫が必要だと考えています。しかし現状は、労力と資金が及ばないため実現には至っていません。伐採木の扱いは大きな課題となっています。

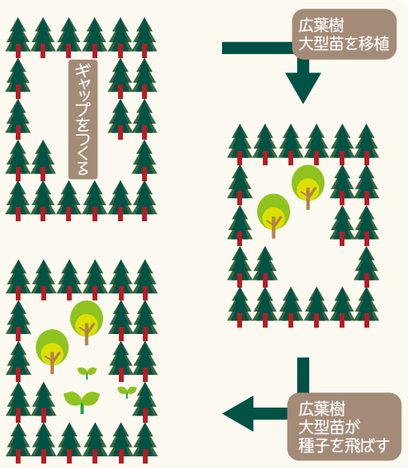
大きな広葉樹を植える

運動地のアカエゾマツ林の中には、近くに広葉樹林がない所があります。このような場所では、ギャップ造成後の樹種多様化は、自然の種子散布に頼るより、植樹する方が確実です。広葉樹を植樹することで、それらがやがて種子散布源となり、アカエゾマツ林を樹種多様な森へ導きます。

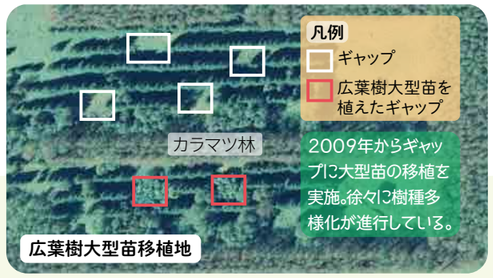
しかし、エゾシカの生息地で広葉樹を育てることは、容易ではありません。そのために植樹に用いる広葉樹は、苗畑内である程度成長した大型苗を用います。大型苗の樹冠は、エゾシカが届かない高さにあるため、枝葉が被食されることはありません。あとは樹皮を守るネットを巻くだけで、エゾシカによる被食を防ぐことができます。

2009年からアカエゾマツ林の樹種多様化に大型苗を用いています。これまで110本植えましたが、エゾシカに被食された苗は1本もありません。

今後も植えた大型苗は確実に成長し、やがて種子を飛ばすはずです。その時が来れば、アカエゾマツ林の樹種多様化は、エゾシカの生息密度の低化傾向と相まって確実に促進するはずです。その相乗効果を期待しながら、今後も継続してアカエゾマツ林に大型苗を植えていきます。



広葉樹林が近くにない アカエゾマツ林の樹種多様化



広葉樹大型苗移植地

森づくりの原動力は ボランティアさん！

広葉樹大型苗の移植は、種子の採集から苗木の管理、そして植樹に至るまで、全てボランティアさんの協力を得て実現しています。

苗木の種子は運動地の森で採集後、防鹿柵で囲われた苗畑に播いて育てます。10年ほどで樹高が8～10メートル、重さ300～400kg程度の大型苗になります。苗木が小さい時は、ボランティアさんの力を借りて、水やりや除草を適度に行い、成長の手助けをします。苗木が雑草に負けないくらい大きくなれば、あとは自然に委ねます。そのため、ネズミや虫による被害を受ける苗木もありますが、それは自然の営みとして許容しています。

こうして人と自然が育んだ大型苗は、毎年森づくりワークキャンプで植樹しています。森づくりワークキャンプは、合宿形式の森づくりイベントです。今年で26回目を迎え、これまでにのべ277人が参加しています。

作業は、運搬にクレーンを使う以外は、全て手作業です。木の負担を抑える丁寧な仕事ができますが、反面たいへんな労力がかかります。そのため、森づくりワークキャンプで植えられる大型苗の数は毎年10本前後がやっとです。数だけ見ると、大きな成果とは言えないかもしれません。しかし、効率だけではなく、木を大切にする想いを優先させるのが100平方メートル運動の森づくりです。これまで移植した大型苗110本は、その想いに応えるかのように、枯れることなく全てが成長しています。自然を愛する人々の想いがつくる運動地の森。この尊い森を次世代に遺せることを誇りに感じながら、これらも皆さんと一緒に、自然と調和した森づくりの可能性を広げていきます。

自然かく乱を模したギャップ

桐田　雅則さん

森づくりボランティア
100平方メートル運動北海道支部幹事

1953年生まれ、北海道出身札幌在住。小学校の教員を32年間務め、退職後森づくりボランティアに初めて参加。その後は定期的に知床に通い、今や森づくりの現場には欠かせないメンバーになっています。また、現在は北海道支部の役員も務め、更に活躍の場を広めています。100平方メートル運動を支える桐田さんに森づくりにかける想いをお聞きしました。

森づくりボランティアに参加したきっかけは何ですか？

100平方メートル運動を知ったのは、やはり「天声人語」がきっかけでした。

1976年1月の記事でイギリスのナショナルトラストのことを知り、その理念に強く共感しました。当時、深刻な公害問題を経験した私たちにとって、ナショナルトラストは、自然や公益的な財産を、市民の手で守ることができる可能性を示してくれたと思います。そして、77年3月に始まった「しれとこ100平方メートル運動」が、本格的なナショナルトラストとして、多くの人から支持を得たことに希望を抱きました。それからは、その感慨と共に「知床」と「ナショナルトラスト」が僕の中に刻まれました。

そして、知床を訪れる機会を得たのは94年、長女の「自由研究はヒグマで」の一声がきっかけでした。家族で斜里岳登山や知床博物館を見学した後、知床自然センターに立ち寄り、家族全員で運動に参加、「やっと運動に手が届いた」という気持ちでした。

教員生活も晩年を迎えた頃、知床は世界遺産登録後のオーバーユースやエゾシカの問題が顕著になっていました。そのニュースを聞く度に「知床の自然保護は頭の中の関心だけで終わるのか？」という問いかけが募り、2010年3月に早期退職を決意。そして、気になっていた知床の森づくりに参加するため、知床自然センターに電話をかけました。その時電話に出たのは、今も活躍している松林さんです。穏やかな対応にほっとしたのを覚えています。そして、その年の夏から森づくりボランティアに参加しました。

森づくりの現場から

森づくりのやりがいや面白さを教えてください。

僕は、土に触れていると気持ちが落ち着きます。樹木や植物の声を聴き、姿を見つめ応援していると「あぁこの子たちは生きている」「伸びようとしている」と嬉しくなります。同時にこうして関わることで自分も生かされていると感じます。また、森では何といっても流れる時間がゆっくりです。それに比べてせかせかした現代社会は忙しすぎです。「忙」とは心を亡くすということです。「南の絵本」という詩の中に「…いそがなくってもいい。種をまくはやさで歩けばいい…」という一節があります。ゆっくりと伸びる根のように、自然の営みに習いたいですね。

これまでの活動の中で、特に印象に残っていることや感動したことはありますか。

たくさんありすぎるのですが…

何といっても初めて参加した2010年夏の森づくりです。何も分からず飛び込んだ場。不安な面持ちでメンバーを見ると、ずらーっと並ぶ大ベテランの面々。「これはとんでもない所に来てしまった！」と、57歳だというのに少年のようにガチガチに緊張していました…が、その時ある方が実ににこやかに「よく来たねぇ俺も何もわからないでやってるんだ。心配することないよ。」と声をかけてくれ、一気に緊張がほぐれたことを今でも良く覚えています。その他にも、森づくりの場で出会う様々な業種の人から、これまで気が付かなかったことを学べたりと、きりがありません。

これから森づくりに参加する方に向けてメッセージをお願いします

森づくりの良さについては、前述の通りなので、活動の「意義」を一言加えさせていただきます。

昨年は、地球温暖化・気象激変をめぐって大きな動きがありました。16歳のグレタ・トゥーンベリさんの行動と叫びは、自然の恩恵を無責任に享受してきた私たち大人への痛烈な批判でした。グレタさんは直ちに地球を救う特攻薬を作れとか実効性のある法律を作れとか言っているのではありません。頭で解りながらも何も行動を起こさないことを責めているのです。大それたことでなくてもいい。一人ひとりが自分の出来ることを一つでも二つでも行動しなさいと言っているのです。そう考えると、僕たちの森づくりは、ほんの少しは地球を守る行動になっているのかなと、改めて思うのです。

100平方メートル運動地

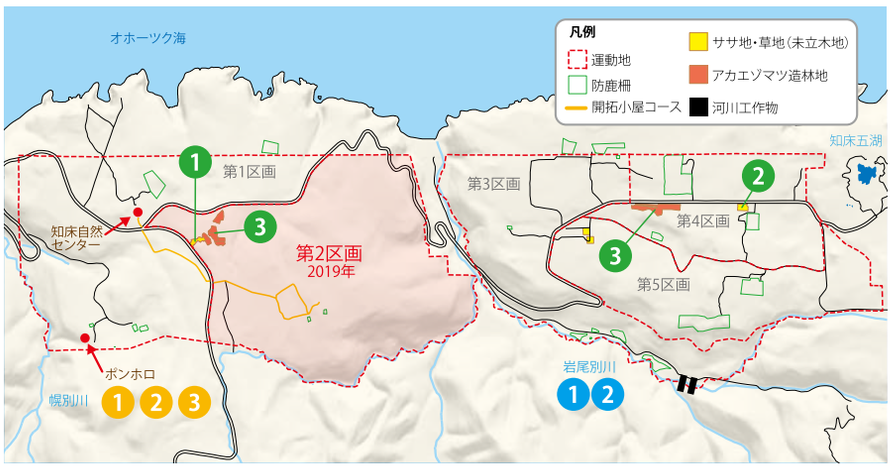
2019年度 活動報告

2019 年度は、幌別台地の東側にある第 2 区画が回帰作業年です。

森林再生では、草地・ササ地の森林化作業やアカエゾマツ造林地の樹種多様化作業を中心に行いました。

生物相復元では、岩尾別川におけるサクラマスの復元に取り組む他、河川工作物改修に向けた働きかけを行いました。

運動地公開では、開拓小屋コースの運営や各種交流事業を実施しました。その他、知床自然教室 40 周年イベントや支部ワークキャンプなど、世代を超えて運動参加者が親交を深める機会を創出しました。



森 森林再生

1 ササ地の森林化作業、継続実施中！

ササ地掻き起し作業を継続しています。今回の作業地では、明らかにササの衰退が見られました。今後の樹木の更新に期待が高まります。ササ地を森に変える作業は、着実に進んでいます。

2 植え左苗木がシカに食べられまし左！

植樹した中型広葉樹がシカに被食されました。シカの好みではない樹種だったので、ネットを巻かなかったためです。草地など、シカが頻繁に採食活動をする環境では、現在も樹皮保護ネットが必要です。

3 アカエゾマツ林を重機で間伐！

過密なアカエゾマツ林を、重機を用いて間伐しました。今後も、従来の森づくり作業では手に負えないアカエゾマツ林を対象にして、重機で間伐を行う予定です。

川 生物相復元

1 サクラマス復活の兆しあり！

近年、海から戻ってくるサクラマスが増えていることから、今後は卵の放流を休止し、自然状態での回帰状況を見守る方針となりました。20 年以上続けてきた復元への取り組みは新たな段階を迎えています。

2 岩尾別川のダム改修の検討始まる

世界遺産登録の 2005 年以降、岩尾別川では 5 つの工作物（ダムなど）が改修され、魚の往来が可能になるなど川の環境改善が進みました。その結果を受け、現存する工作物についても改修に向けた検討が始まっています。

3 自然教室卒業生、知床に大集合

1980 年に始まった自然教室は、これまでのべ 1900 人の子どもたちが参加しています。この秋、40 年の節目を記念して卒業生を対象にしたイベントを開催しました。参加者は 30 名、年代も 10 代から 50 代までと幅広く、すでに自分の子どもを参加させている方もいます。3 泊 4 日間のイベントでは、自然教室のキャンプ地に立てているツリーデッキを完成させた他、植樹祭にも参加してトドマツの苗木を植樹しました。知床の自然を次世代へと伝えていく自然教室は、これからも続いていきます。

人 運動地公開

1 第40回知床自然教室開催！

40 回目となる自然教室には、全国から47名の子どもたちが集まりました。電気も水道もない知床の森でのキャンプ生活を送りながら、海や山への探検やツリーデッキづくりなど自然の中で 1 週間を過ごしました。

2 支部ワークキャンプ始動！

新たな試みとして、運動をご支援いただいている支部の皆さんによるワークキャンプを開催しました。お集まりいただいた 7 名の皆さんは、3 泊 4 日の日程でツリーデッキづくりに汗を流しました。

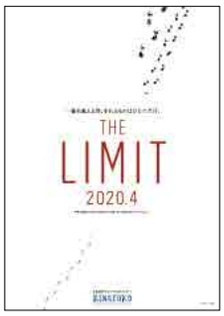
知床自然センター「メガスクリーンKINETOKO」新作「知床の冒険」「THE LIMIT」完成！

2018年から2年間という長い年月をかけて撮影と制作が進められた新作「知床の冒険」、「THE LIMIT」がついに完成しました。この2作品は近日、知床自然センター内にある「メガスクリーンKINETOKO」にて4K映像、5.1chサラウンドシステムで圧倒的な迫力とともにお客様へお届けする予定です。

両作品はKINETOKOのためだけに撮り下ろされた完全オリジナル作品で、第26回JSC賞を受賞した今津秀邦監督に手掛けていただきました。

「知床の冒険」は、知床自然センターの顔として長年親しまれてきた「四季知床」の後継作品として、世界遺産知床のダイナミックな自然や野生動物の営みを陸海空余すところなく紹介しています。一方「THE LIMIT」は、ヒグマと人の間に立ちはだかる知床の課題について切り込んだドキュメンタリー作品です。

公開まで楽しみにお待ちください。



メガスクリーンKINETOKOの上映状況につきましては、下記ウェブサイトをご確認ください。

http://center.shiretoko.or.jp/

なお、運動参加者の方はKINETOKOでの上映を無料でお楽しみいただけます。

進む ホロベツリボーンプロジェクト

2016年の知床自然センターリニューアルオープンを皮切りに、知床自然センターを含むホロベツ地区の更なる魅力アップのためのプロジェクトが進んでいます。2019年度には、駐車場の再整備が行われました。今までよりも普通車の収容台数が約50台増え、バスレーンが新設、駐車場から知床自然センター正面玄関へのメインアクセス階段がスロープ併設のバリアフリー化となりました。

今回の外構整備は、知床国立公園内の移動方法の新システムを将来的に導入することを見据えた対策です。5月の大型連休や8月のお盆時期に発生する車の渋滞の解消はもちろん、公園内で課題となっている「見えてしまうヒグマ」に対し、来訪者が安全に快適に知床国立公園を楽しむためにも、マイカーから乗り換えたシャトルバスを利用して知床の大自然を満喫するシステムがその一案です。そのようなシステムをスムーズに運用するためには知床国立公園の入口に位置する知床自然センターの役割が重要です。施設のリニューアル、そして外構整備はそのための布石といえます。

■2019年5月にオープンした知床自然センター内の店舗「THE NORTH FACE／HELLY HANSEN知床店」。知床のフィールドを楽しむためのアウトドアアイテムを多数そろえて毎日営業中。店舗にはカフェ「BARISTART COFFEE」も併設。

100年後の子どもたちにも日本の自然の素晴らしさを見て感じてほしい

知床は、昨年5月に直営店がオープンする前から、一か月に一度は訪れている馴染みのある場所でした。もっぱら遊ぶためだけに知床の地を踏んでいた私は、こんなにも自然だけではなく関わる人も奥深いものだとは思ってもいませんでした。

この地での衣食住はそれまでと大きな違いはありません。しかし関わる人と自然との距離が近いことは私の考えを大きく変えてくれたと思います。

知床を愛する人、知床に思いを馳せて訪れる人、知床の未来に試行錯誤する人、多くの人がこの地を想いながら生活をしていました。

私たちはザ・ノースフェイス、ヘリーハンセンというブランドを通して、スポーツや自然の素晴らしさを伝えていく仕事をしています。特にこの知床店では世界自然遺産内にある唯一の店舗として、自然や環境問題についても自らの考えを持ち、行動する使命もあります。

店舗があって、商品を仕入れ、販売することが最終地点ではなく、この地により深い結びつきを持ち、「知床にまた遊びに行きたい」「自然のことを学びたい」と多くの人にそう思ってもらえるきっかけが、この店舗であってほしいと強く思っています。

百年後を確認することはできませんが、豊かな知床を残すために、様々な声に耳を傾け、たくさんの人と意見を交わし、自分の身体で感じながら知床に参画していきたいと考えています。

THE NORTH FACE はしれとこ100平方メートル運動を応援しています

株式会社 ゴールドウイン
GOLDWIN
販売本部 販売 1 部
北海道エリア 販売グループマネージャー
山下　佳奈美　さん

このＴシャツの売上の一部はしれとこ 100 平方メートル運動に寄付され、知床の自然保全活動に役立てられます。Ｔシャツは全国の THE NORTH FACE 店舗にてお買い求めいただけます。

知床は、日本の中でも大自然の素晴らしさを子どもたちに見て感じて体験してもらうには、最適な場所です。100 平方メートル運動地の森づくり、生態系の再生は、私たちの思いと通じるところがあり、全国の子どもたちにも伝えたいと思いました。

そこで出会ったのが、知床トコさんです。THE NORTH FACE アスリートでもある写真家石川さんからのお声かけがきっかけで、スタートした企画ですが、登場するトコさんは、子どもたちにとっても分かりやすいキャラクターだと思いました。

”トコさん× TNF ×自然“の企画アイテムを通じて、子どもたちが、知床やさまざまな大自然に興味をもって欲しい。大人になって地球環境のために良いことを楽しく、生活の中につなげて欲しい。そんな思いで、この商品をつくりました。

（ノースフェイス事業部　田中恒光さん）

知床のシンボルマーク
「トコさん」

運動参加者からの message

ご寄付いただいた皆様からのメッセージの一部をご紹介させていただきます。

豊かな森に育っていく知床の姿を楽しみに、毎年僅かですが応援しています。クレジットカード決済は有難いです。

（東京都　50代女性）

斜里町には土地勘もなく、運動地を目にしたこともありませんが、森づくりの道、いつか行ってみたいです。ボランティアの活動も、やってみたいです。叶うといいな！

（愛知県　女性）

しれとこの森通信22、ありがとうございました。知床自然教室40回、しっかりと精神が受け継がれていること、すばらしいと思います。

（東京都　70代女性）

1996年に家族5人で初めて知床を訪れ知床に魅了されました。子ども達も知床の記憶が今も鮮明です。孫も加わり、そろそろ孫も含めた知床訪問をしたいと考えています。自然維持の大切さ、孫にも恵まれた幸せに寄付します。

（東京都　60代男性）

こんにちは、斜里町役場 環境課で課長を務めております南出です。

斜里町役場　南出 康弘

いつも運動に対するあたたかいメッセージとご寄付をいただき、ありがとうございます。

この運動は100年、200年先を見据えた長いプロジェクトとなっておりますので、私もひとつひとつの活動を積み重ね、自然豊かな森づくりに貢献していきたいと思います。これからも知床の自然からたくさんの感動を与えられるよう、職員一同頑張っていきますので、ご支援どうぞよろしくお願いいたします。

本部・各支部の活動報告

◎ 運動推進本部

地元の皆さんで構成する推進本部では、長年ご尽力いただいた3名の役員が退任され、新たに4名の方々が就任しました。今後も各支部との連携を進めながら、全国の皆さんから知床を応援していただけるよう努めてまいります。

役員体制（2020 ～ 2021 年度）

馬場隆（会長）・三浦詔男・村田良介・綾野雄次・遠山和雄・鈴木謙一・大森英晶※・寺谷友紀※・伊勢真衣※・金盛典夫※（※新任）

◎ 北海道支部

北海道支部では、北海道庁でのパネル展や札幌大通りの地下街での PR イベントを開催し、運動の取り組みを多くの方々に知っていただく取り組みを行いました。また、11 月には札幌にて森林再生専門委員が森づくりの現状と課題について報告する講演会を開催しました。

日浦勉委員（北海道大学・当時）による講演。

◎ 関東支部

毎年、関東支部では、羽田空港から自然教室に出発する子どもの取りまとめを行っています。出発式では不安な顔だった参加者も、1週間後には、迎えの保護者の皆さんも驚くほどたくましい顔で空港に降り立ち、解散式を迎えるようになっています。

解散式の様子。知床から戻った14名の子どもたち。

◎ 関西支部

年明けのお正月、関西在住の自然教室参加者が集まるイベントを大阪で開催しました。現役の参加者やスタッフ、卒業生など合わせて 31 名が集まり、自然教室の定番ゲームや歌で楽しみながら夏の知床に思いを馳せる時間を過ごしました。参加者からは「あんなことあったなーとか思い出せて良かった」「来年も行くで」といった声が聞こえました。

解散式の様子。知床から戻った14名の子どもたち。

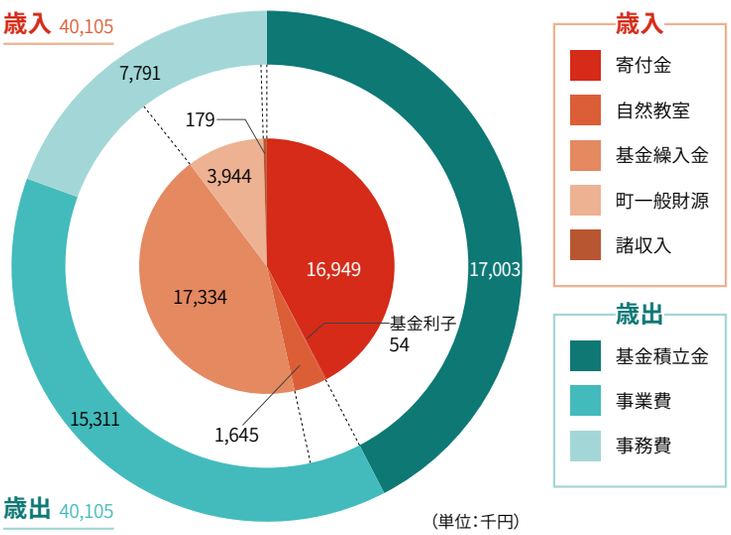
会計報告

運動の活動資金は、「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しており、町の一般会計と基金からの繰入金により事業を実施しています。

（単位：千円）2020年5月31日現在

国立公園内森林保全基金の状況			2018 年以前	2019 年	計
	歳入	寄付金	904,854	16,949	921,803
		利息	69,840	54	69,894
		計	974,694	17,003	991,697
	歳出	事業費	770,179	13,666	783,845
		事務費	139,865	3,668	143,533
		計	910,044	17,334	927,378
	残高				64,319

○2019年度の事業決算

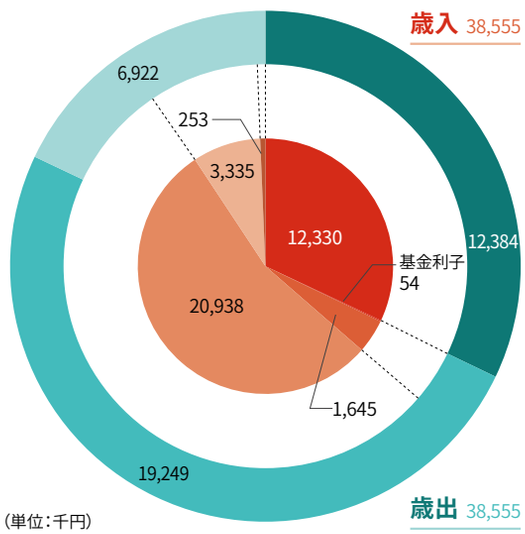


2019 年度は、総額 40,105 千円を支出しました。

事業費の内訳は、森林再生業務委託費（14,857 千円）が主なものです。また、事務費として森通信の作成費用や受付事務員賃金などに 7,791 千円を支出しました。

2019 年度にいただいた寄付金（16,949 千円）は、いったん運動の基金に積み立て、2020 年度以降の活動資金として活用していきます。

○2020年度の事業予算

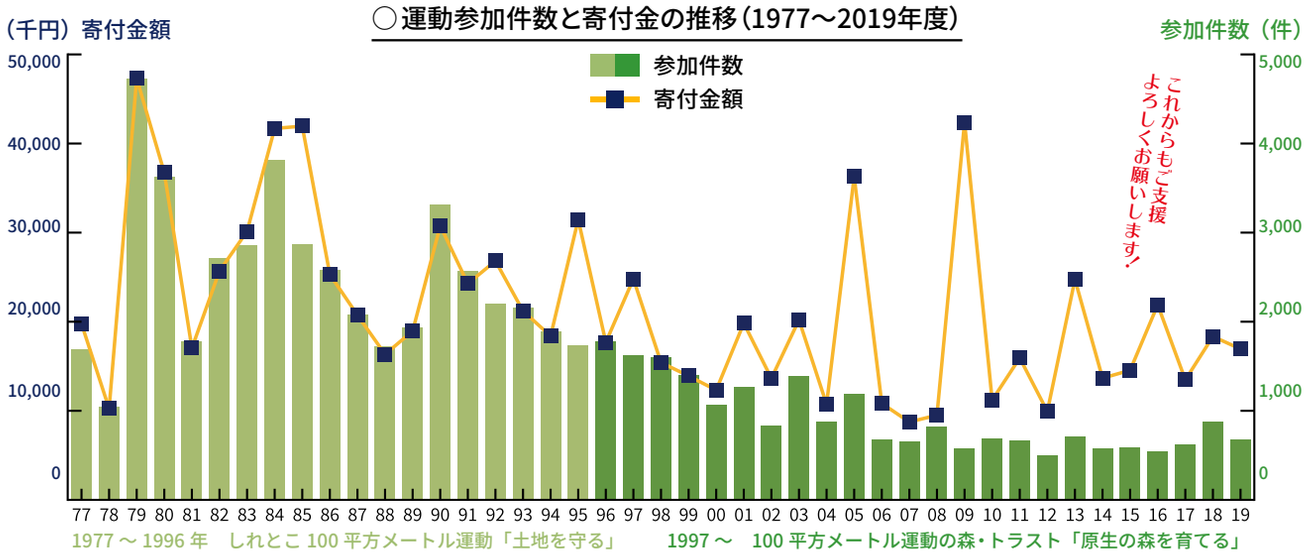


2020 年度の総事業費は、38,555 千円を予定しています。

収入では、これまで積み立ててきた運動の基金から 20,938 千円、町の一般会計から 3,335 千円を繰り入れるほか、寄付金の目標額として 12,330 千円、その他 1,952 千円を見込んでいます。

支出は、森づくり作業に係る事業費 19,249 千円を予定しています。また、事務費として森通信印刷などの広報普及費用や受付事務員賃金などに 6,922 千円を支出する予定です。

○運動参加件数と寄付金の推移（1977～2019年度）



しれとこの森通信　No.23　令和2年(2020) 5月31日発行　発行：斜里町役場総務部環境課自然環境係　〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地　TEL：0152-23-3131(内線100)　FAX：0152-23-4150

知床の森づくりには、あなたの力が必要です!

森づくりボランティア＆イベント参加者募集中

森づくり週末ボランティア

2020年
- 6/6(土)～7(日)
- 8/29(土)～30(日)

【活動内容】
主に苗畑作業(除草・苗木移植等)や防鹿柵の補修作業を行います。

2021年
- 1/23(土)～24(日)
- 2/6(土)～7(日)
- 2/13(土)～14(日)

【活動内容】
冬期森づくりの道の管理や伐採作業を行います。

イベント・ボランティア参加申し込み・お問い合わせ
公益財団法人 知床財団　自然復元係
TEL:0152-24-2114／MAIL:info@shiretoko.or.jp

※各種イベントは、今後の新型コロナウィルスの状況により、中止となる可能性があります。

しれとこの森交流事業

● 森づくりワークキャンプ
2020年 10/30(金)～11/3日(火)
参加費:16,000円(宿泊費・食費・保険料等込み)
対象:18歳以上
定員:12名(先着順)　申込〆切9/30

● 第 41 回知床自然教室
※新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

● 第 24 回しれとこ森の集い(植樹祭)
知床アウトドアフィルムフェス同時開催(10/10-11)
2020年 10/11(日)
参加費:無料 申し込みは
斜里町役場　環境課　自然環境係まで
TEL:0152-23-3131(内線100) FAX:0152-23-4150

100 平方メートル運動の森・トラスト参加のお願い

知床の森づくりは、「100 平方メートル運動の森・トラスト」参加者からの毎年の寄付金によって支えられています。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願い致します。

■寄付金:1口5,000円

参加(寄付)の方法

● 申込書に必要事項を記入の上、郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。

【郵便払込】
申込書付属の払込取扱票で払い込みください。

寄付をいただいた方に募金証書をお送りします。メッセージを添えて、ご家族ご友人へ贈るプレゼントにもおすすめです。

【ホームページ】
http://100m2.shiretoko.or.jp/
「寄付のお願い」ページからお申込みください。

【現金書留】
申込書を同封の上、現金書留を斜里町役場にお送りください。

【クレジットカード】
ふるさとチョイス経由のみ可能です。
ふるさとチョイス　斜里町　で検索

【控除制度について】
運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度(ふるさと納税)の対象となります。
- 相続税は非課税となります。
- 所得税は課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- 住民税は課税額から寄付控除を受けることができます。
- 控除の対象となるのは、2,000円を超える寄付です。

【お問合せ】
〒099-4192
北海道斜里郡斜里町本町12番地
斜里町役場　自然環境係
TEL　：0152-23-3131(内線100)
FAX　：0152-23-4150
MAIL：100m2@town.shari.hokkaido.jp

100平方メートル運動の森づくり最新情報をSNSにて発信中